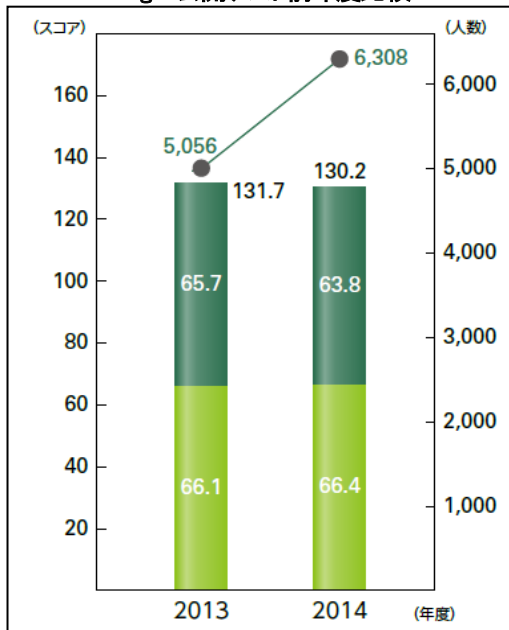
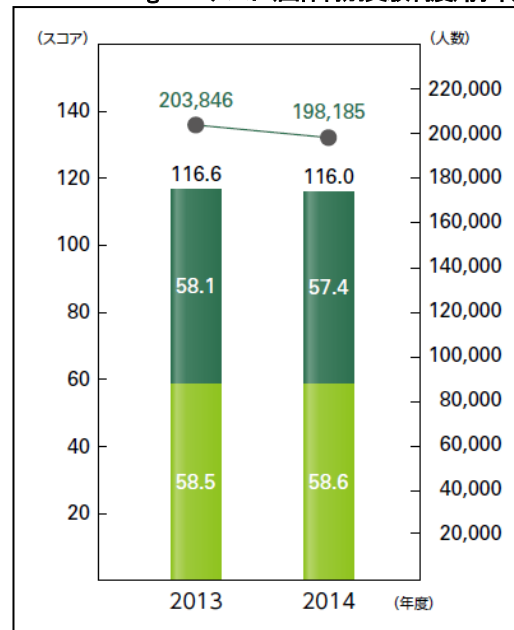


● 受験者数 ■ Listening ■ Reading

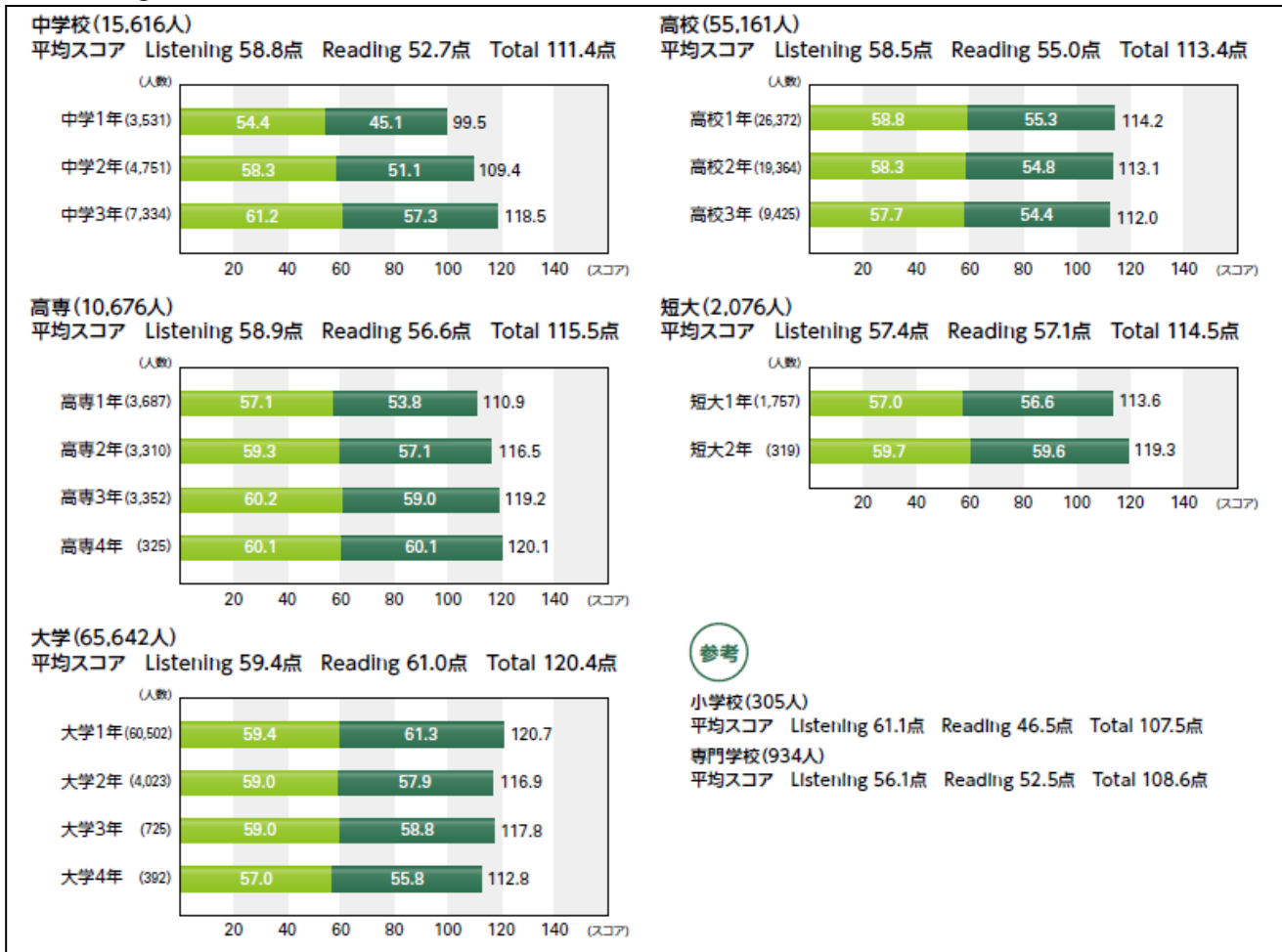
1. TOEIC Bridge 公開テスト前年度比較



2. TOEIC Bridge IP テスト(団体特別受験制度)前年度比較



3. TOEIC Bridge IP テスト(団体特別受験制度)所属学校別受験者数と平均スコア



参考

<別紙④>

<表記についてのおお願い>

「TOEIC」は米国 Educational Testing Service(ETS)の登録商標です。記事内で「TOEIC」と表記される場合は、TOEIC® または TOEIC(R)と「R マーク」を付けていただくようお願いいたします。また、本データをご利用の際は、「出典:『TOEIC® プログラム DATA&ANALYSIS 2014』 (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会」と出典元の表記もお願いいたします。

TOEIC®プログラムにおける公開テストおよび団体特別受験制度(IPテスト)の違い

	公開テスト	団体特別受験制度(IP:Institutional Program)
日程	当協会が日程を設定	実施団体において随時実施
会場	当協会が会場を設定	実施団体において会場設定
実施	当協会が試験運営管理	実施マニュアルに沿って実施団体が運営管理
申込	個人で当協会に申し込み	実施団体担当者を通じて申し込み
結果	受験者個人宛に、当協会より Official Score Certificate(公式認定証)を発行。	実施団体担当者宛に下記2種類を発送。 ・スコアロースター(成績一覧表) ・スコアレポート(個人成績表) ※Official Score Certificate(公式認定証)は発行されません。

TOEIC®プログラム

TOEIC テスト、TOEIC Speaking & Writing、TOEIC Bridge の総称。

3テストを合わせた世界の2014年のTOEICプログラム受験者数は年間約700万人、約150カ国で実施された。

TOEIC®テスト

Test of English for International Communication の略称。

1979年に開始された、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト。テスト結果は10点から990点までのスコアで評価され、その評価の基準は常に一定に保たれる。スコアによる評価や英語能力を正確に測定できる質の高さが評価され、企業・団体においては昇進・昇格の要件として、また、社員の採用の際などに参考にされており、また、学校においては入試や単位認定などでも広く活用されている。2014年度の受験者数は240万人。

TOEIC® Speaking & Writing(TOEIC S&W)

TOEIC Speaking & Writingは、国際的な職場環境において効果的に英語でコミュニケーションをとるために必要な、話す・書く能力を測定するテスト。テスト開発機関であるETSの認定を受けた、複数の採点者が公平に採点し、合否ではなく、0点から200点までのスコアで評価する。また、発音・イントネーション/アクセントについても3段階で評価を知ることができる。TOEICテストと同様、一般的な、またはビジネスの場面で採用されているが、特殊なビジネス英語や特定の業界・分野の知識を必要としたり、特定の国の歴史や文化に関連する固有の事象がわからなければ解答できない問題などは含まれていない。2014年度の受験者数は2万4千人。

TOEIC Bridge®

TOEIC への架け橋という意味を込めて、基礎的なコミュニケーション英語能力を評価する世界共通のテストとして開発され、2001年より開始。スコア表示による評価方法や、評価の基準が常に一定に保たれる点など、TOEICテストの特長を備えつつ初・中級レベルの英語能力測定に照準を合わせて設計されたテスト。結果は20点から180点までのスコアで評価される。2014年度の受験者数は20万5千人。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会(IBC)

「人と企業の国際化の推進」を基本理念とし、1986年に財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会として設立。

以来、「グローバルビジネスにおける円滑なコミュニケーションの促進」をミッションとし、国内外の関係機関と連携しながらTOEIC事業およびグローバル人材開発事業を展開している。2012年4月1日付で一般財団法人に移行。